

# 自己点検評価報告書

佐賀大学学術情報処理センター

平成 13 年 2 月 8 日

# 目次

<b>第 1 章</b>	<b>学術情報処理センター設置の理念と目標</b>	<b>1</b>
1.1	設置の背景	1
1.2	学術情報処理センターの基本概念	1
1.3	業務内容	2
1.3.1	研究支援	2
1.3.2	教育支援	3
1.3.3	ネットワーク支援	4
1.3.4	図書館情報支援	4
1.3.5	ネットワーク安全管理	5
1.3.6	SCS (スペースコラボレーションシステム) 支援	6
1.3.7	学内情報化支援	6
1.3.8	地域情報化支援	7
<b>第 2 章</b>	<b>学術情報処理センターにおける教育活動</b>	<b>9</b>
2.1	センター教員の教育活動	9
<b>第 3 章</b>	<b>学術情報処理センターにおける研究活動</b>	<b>11</b>
3.1	研究活動の概要	11
3.2	研究業績一覧	12
3.2.1	著書	12
3.2.2	学術論文	12
3.2.3	資料・解説・論説・研究報告等	13
3.3	共同研究・研究費受け入れ状況	14
3.3.1	共同研究	14
3.3.2	研究費受け入れ状況	14
<b>第 4 章</b>	<b>学術情報処理センターの教員組織</b>	<b>15</b>
4.1	教員配置状況	15
4.2	採用・昇任の手順・基準	15
4.2.1	教員人事の基準	15
4.2.2	教員人事の手順	15

第5章	学術情報処理センターのシステム	17
5.1	学術情報システムの構成	17
5.2	学術情報処理センター演習室	18
5.2.1	講義一覧及びその受講者数	18
5.2.2	演習室時間割	23
5.3	電子図書館システムの構想	25
第6章	学術情報処理センターにおける国際交流	27
6.1	海外からの訪問者	27
6.2	学術情報処理センター教員の海外渡航及び国際会議参加	27
第7章	学術情報処理センターと社会との連携	29
第8章	学術情報処理センターにおける自己点検・評価の体制	31
第9章	学術情報処理センターにおける外部評価の体制	33
9.1	協議会・研究会参加状況	33
9.2	ホームページからの情報公開と意見収集	33
第10章	学術情報処理センターの活動	35
10.1	センター活動の現状と計画	35
10.1.1	センターの活動状況	35
10.2	学術情報処理センターの委員会構成	37
10.2.1	運用委員会の主な議題	38
10.3	広報活動	42
10.3.1	広報誌発行	42
10.3.2	センターニュース	43
10.4	他部局との連携	45

# 第1章 学術情報処理センター設置の理念と目標

## 1.1 設置の背景

学術情報処理センターは、以下のような背景の下、平成12年4月に、情報処理センターを改組し、設置された。

1. 近年の情報通信分野の進展は目覚ましいものがある。コンピュータとインターネットという新しい創造表現手段および情報交換手段は新しい文化を創造しつつある。当然、それらは研究・教育の内容に大きな変化を引き起こす。同時に文書のオンライン化等は、一般事務処理作業だけでなく、行政を含んだ様々なサービスの質的变化をもたらす。文化の継承と創造を責務とする大学は、こうした動きの当事者でなければならない。
2. また、我が国を巡る諸問題に対応し、科学技術創造立国を目指すために策定された、「科学技術基本計画」(H8.7)でも研究開発に関する情報化の促進が掲げられている。
3. 学術研究の発展には、従来の図書館機能に加え、コンピュータ・ネットワークを使った学術情報の迅速かつ的確な収集・提供が不可欠である。学術審議会の建議「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」(H8.7)でも、このような機能整備の必要性が述べられている。
4. このような情勢の中、佐賀大学においても総合計画検討委員会の答申「佐賀大学高度情報化の基本的考え方について」(H9.1)を得て、学術情報基盤の整備を着実に進めているところである。
5. しかし、現状では大学の学術情報基盤を統括する部門がなく、総合的な情報化が困難である。そこで学術情報処理センターを設置して大学の学術情報を支える基幹情報システムの統括組織として位置付け、情報化の促進を図る。

## 1.2 学術情報処理センターの基本概念

従来の情報処理センターおよび総合情報処理センターは研究支援を主としてきた。しかし、その利用内容は、電子メールによる連絡から大規模数値計算まで、急速に多様化している。特に、電子メールは日常の情報交換手段として、欠くことの出来ないものとなっている。また、インターネットを利用した学術情報流通の質的・量的拡大は著しいものがある。更に、情報処理教育の普及や事務処理の電算化など、利用内容が多様化している。こうした、コンピュータとネットワークの利用形態の多様化に対応した新しい概念の組織が必要とされている。

学術情報処理センターは大学における学術情報を支える基幹情報システムの統括組織として設置

された。この基幹情報システムは、基幹ネットワーク、ネットワークサーバ、外部接続線、共通的教育用システム、共通的研究用システム、学術情報データベース等から構成される。

学術情報処理センターでは以下の業務を行う。

1. 研究支援
2. 教育支援
3. ネットワーク支援
4. 図書館情報支援
5. ネットワーク安全管理
6. SCS 支援
7. 学内情報化支援
8. 地域情報化支援

また、業務と並行して、実際のシステム運用に伴うシステム管理技術の調査・研究開発、ネットワークを通じて迅速・的確な学術情報の収集・提供を行う電子図書館的機能の実現のための調査・研究開発、ネットワーク上の安全管理技術の調査・研究開発を行う。

## 1.3 業務内容

### 1.3.1 研究支援

1. 研究支援のための基幹的情報システムを整備・維持する。  
連合大学院農学研究科(博士課程)、工学系研究科(博士課程)、経済学研究科(修士課程)、教育学研究科(修士課程)、工学系研究科独立専攻生体機能システム制御工学専攻などの大学院充実が行われている。この研究を支援する情報システムを構築し提供する。
2. 情報技術を用いた研究の高度化を支援する。
  - (a) ワードプロセッサや  $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$  を利用した論文など文書作成を支援する。
  - (b) 表計算によるデータ処理から、可視化ツールを用いたデータ表示までのデータ処理を支援する。
  - (c) 中規模数値計算及びシミュレーションなど、コンピュータを用いた研究を支援する。
3. 電子メールなどネットワークを通じた国内外との研究交流促進を支援する。  
海洋温度差エネルギー実験施設とインド国立海洋技術研究所との共同開発協力協定を始めとして、国内外施設との共同研究や研究協力がスムーズに運ぶようネットワーク運用を行う。研究情報取得、学内外研究者との議論、研究結果発表などの高速化・即時化を図ることは、地方に位置する大学では特に価値を持つ。
4. WWW や ftp などネットワークを通じた研究開発成果の公開を支援する。  
研究成果を WWW や ftp 上で公開する例が佐賀大学では小規模ながら既に始まっている。これらの技術支援およびシステム支援を行い、地域・国内外との共同研究に生かす。
5. 大学の研究用コンピュータ環境について技術動向の調査研究を行う。  
情報技術の進展は目覚ましいものがあり、その利用技術の有無が研究環境を大きく左右する。技術進展に追隨して最先端の研究を進めるために常に動向を把握検討する。特に地方に位置し

その規模が小さい佐賀大学では、積極的な調査と効率的な環境の構築を常に意識する必要がある。

また大学のシステムは、学生から教職員までの多様な利用技術レベルの利用者を抱え、導入教育から研究、事務処理まで多様な利用内容に対応しなくてはならず管理運用上の困難さを有している。これを研究する。

6. 新技術、ソフトウェア、情報技術応用の研究開発を行う。

情報技術は、まさに発展途上にある。その技術開発は実際の運用・実践を行うセンターが最も相応しい位置にある。佐賀大学では、情報処理センター教員によるネットニュースシステムのためのソフト開発の例がある。また、WWW 情報検索や教育工学などに関する研究がなされている。

### 1.3.2 教育支援

1. 情報処理演習室を設置・管理・運用するとともに、全学共通的な情報教育システムを整備・維持する。

全学生にコンピュータ利用権を与え、情報処理科目を必修科目として課している。教育内容にも電子メール利用などを含め時代に相応しい情報素養の充実を図っている。この全学的な情報教育を効率良く行えるシステムを構築し提供する。

2. 専門教育・共通基礎教育の情報化、マルチメディア化を支援する。

佐賀大学では、多くの教員によって、電子メールによるレポート提出や WWW による課題の提示などが行われている。また、コンピュータやプロジェクタなどの情報機器を使った教育も行われている。これらの教育活動を技術支援するとともに、必要なシステムや基盤の提供を行う。

3. 公開端末や情報コンセントの提供により自発的学習、自発的情報交流を図る。

常に利用可能なコンピュータの利用環境を充実し提供する。センター内端末を充実するとともに、学内に情報コンセント・情報端末等の配置を行い、その維持を行う。佐賀大学では既に、就職情報端末や科目選択支援システム端末が配置されている。

4. 附属幼稚園、小学校、中学校、養護学校の情報教育を支援する。

既に附属小学校、中学校には専用線を引き、常時インターネットが利用可能な体制としている。また、他の施設も内線電話でインターネット接続が可能な状況にある。これらを引続き支援するとともに、今後の情報教育の拡大に伴う技術支援を行う。

5. WWW や電子メールなどネットワークを通じた講義資料・レポート等の配布・収集を支援する。

既に個人的に始まっている試みを広げるため、技術指導、システムの設置等を通してこれを支援する。

6. 大学の教育用コンピュータ環境について技術動向の調査研究を行う。

初等中等教育での情報処理教育の進展、情報機器の進展等の時代要請に合わせて、教育用コンピュータの環境は、柔軟に対応せねばならない。これを研究する。

7. 新技術、ソフトウェアの研究開発を行う。

佐賀大学では、計算機やネットワークを用いた教育支援の研究が行われている。このような教

育に有用な技術、ソフトウェアの研究開発を進展させる。

### 1.3.3 ネットワーク支援

1. 基幹ネットワークを整備・維持するとともに、その高度化を図る。  
佐賀大学では、学内 LAN が全学に張られておりネットワークで相互接続されている。今や基幹ネットワークは停止が許されない学術情報基盤となっている。センターでは、各部局、附属施設等を接続する基幹ネットワークを整備・維持し、様々な情報が流れる安全な共通の学術情報基盤を安定に提供するとともに、各種ネットワークサービスを充実して研究・教育の高度化を図る。
2. 全学ネットワークの連絡・調整にあたり、計画的な発展に寄与する。  
佐賀大学では、各建物内のネットワークが既に存在している。更にそれらのサブネットワーク化も幾つか進められている。これらのネットワーク間での連絡を行ない、全学がバランスの良い安全なネットワーク構成となるように調整を図る。
3. ネットワークシステムおよび応用について技術動向の調査研究を行う。  
ネットワーク上のサービスは急速に進歩拡大している。この調査研究を行ない研究教育に資するサービスの積極的導入を図る。
4. 新技術、ソフトウェア、ハードウェアの研究開発を行う。  
ネットワーク技術は発展途上にあり多くの研究開発が必要である。実践に基づく研究を行なう。
5. 各種サーバを導入・維持管理し、ネットワークサービスの整備・充実を行う。  
電子メール、WWW、ネットニュース、遠隔利用、ファイル転送、DNS、PPP、NTP、リモートプリント、遠隔会議など、ネットワークを利用した多くのサービスが存在し、また次々に誕生している。これらのサービスの整備・充実を図る。

### 1.3.4 図書館情報支援

1. 図書館電算化システムの維持管理を行う。  
既に、情報処理センターは、附属図書館における電算化システムの開発を支援し、Windows 環境でのシステム構築、国立情報学研究所とのインターネットによる情報交換などを全国に先駆けて実現することに寄与した。このような電算化システムの維持管理を行い、充実を支援する。
2. ネットワークとコンピュータを生かしたマルチメディア・電子図書館の機能を充実・強化する。  
図書館機能のマルチメディア化、ネットワーク化が進展を見せている。佐賀大学附属図書館においても、現在、CD-ROM で提供される雑誌目録のオンライン検索、佐賀大学所蔵図書・雑誌のオンライン検索、佐賀大学刊行の紀要・論文集の目次データベース公開、文献調査等のオンラインでの依頼と回答、オンラインジャーナル提供の試行、文献検索サイト等の有用リンク集提供などのサービスが始まっている。「佐賀大学マルチメディア電子図書館構想」を持ちサービスの充実を目指している。この構想には、本学所蔵の貴重図書（小城鍋島文庫）の画像データベース化等が含まれる。学術情報処理センターにおいては、この基盤となるネットワーク、サーバシステム、データベース管理システム等の維持管理を行い、充実を支援する。

- (a) マルチメディア情報の蓄積及び公開
  - i. 書誌・所蔵データベース
  - ii. 目次データベース
  - iii. 全文テキストデータベース
  - iv. 静止画像データベース
  - v. ビデオ画像データベース
- (b) 電子ライブラリアン・システムの構築
  - i. エキスパートシステム
  - ii. 電子カウンター・システム
  - iii. 入退館システム
  - iv. 図書自動貸出システム
- (c) 電子媒体を利用したサービスの展開
  - i. オンラインジャーナル
  - ii. 文献電送システム

### 3. 学術データベースの構築を支援する。

低平地防災研究センターにおける地盤情報および地理情報データベースや、海浜台地生物生産研究センター、海洋温度差実験施設におけるデータなどの佐賀大学独自の貴重なデータの蓄積・公開を支援する。

### 4. 教育データベースの構築を支援する。

教材、資料等をまとめて管理するデータベースの構築について支援を行なう。

### 5. 学内情報発信を支援する。

研究成果、論文、シラバス、教材、その他多様な情報がネットワーク上に公開されつつある。学術情報処理センターでは、これを情報システムの面から支援する。

### 6. インターネットを利用した情報収集機能の充実・強化を図る

インターネットは巨大な情報空間いわば地球規模の図書館となりつつある。固有情報の電子化提供に加えて、この情報空間を有効に利用するための親和性の良いインターフェースの構築は、学術情報の迅速・確実な収集には重要である。学術情報処理センターでは、この方向性を将来の電子図書館的機能として位置付け、固有情報の提供と合わせて、ネットワーク接続の増強、インターフェース高度化を目指すとともに、不正アクセス、破壊活動への対処を行う。

## 1.3.5 ネットワーク安全管理

### 1. 不正アクセスに対する防止対策を行う。

現在、インターネットを通じた不正アクセス攻撃が毎日のように行われているが、十分な対策が取られているとは言えない。学術情報処理センターでは、ファイアウォールの設置・維持・監視、暗号化通信技術の導入、ユーザ認証の厳密化、全学ネットワーク構成の適正化等、学内外からの不正アタックへの対策を行い、快適で安全なネットワーク環境を維持する。ただし各部局の個別データの保全是、それぞれで行うものとする。

### 2. 不正アクセス追跡のためのアクセス記録を管理する。

不正アクセスの追跡にはアクセス記録が必要であるが、その維持管理は、取得技術、大量デー

- タの保持、プライバシーとの関連など、面倒な問題を含む。学術情報処理センターでは、学外通信記録の保持と外部への情報提供に、注意深く対応する。
- 不正アクセスに関する情報を収集し学内へ広報する。  
不正アクセスやウィルスなどへ対抗するには、早期の情報収集と広報が必要であるので、学術情報処理センターにおいて、収集・広報を行う。
  - 不正アクセスに対応した障害対策を行う。  
不正アクセスやウィルスが発生した際の対応は、緊急にかつ全学規模で行う必要がある。これを学術情報処理センターが中心となって行う。

### 1.3.6 SCS (スペースコラボレーションシステム) 支援

- システムの維持管理および関連サービスを実施する。  
視聴室を情報処理センター内3室、ATMネットワーク経由2室を設置しており、研究・教育・事務連絡等に利用している。この利便性を高めるとともに広報を行い発展を図る。
- SCSを用いた大学間交流を支援する。  
連合大学院農学研究科参加の大学間、高エネルギー加速器研究機構との間などを始めとして利用されている。このシステムを維持管理して利用者の利便に答える。
- SCSを用いた遠隔教育を支援する。  
既に連合大学院農学研究科参加の大学間で大学院生の指導などに利用されている。システムを維持管理して利用者の利便に答えると同時に、更なる利用を促進する。

### 1.3.7 学内情報化支援

- 学内の諸業務の情報化について技術支援を行い、大学運営の高度化を図る。  
今や情報基盤は、教育研究に限らず大学環境全ての面で必要になっている。これに対して技術支援を行ない、全学的な底上げを図る。
- 教育研究活動と事務処理とのインターフェイス部分の高度情報化を支援する。  
事務処理と研究教育活動の密接な関係を作ることは大学全体の情報化において重要な課題である。既に、相互接続およびメール連絡等について進められている。これらのネットワーク接続、データ互換などについて事務と共同して検討する。
- 計算機とネットワークに関する各種情報の収集と学内への提供を行う。  
情報技術進展の速さと雑多な情報の多さによって、必要な情報を的確に把握できなくなっている。これを収集整理して提供する。
- 学内各部局への計算機とネットワークに関する技術的相談業務を行う。  
既に、相談員制度を設けて技術相談に応じている。これを充実する。
- 新しい計算機とネットワークの利用技術の広報と講習を行う。  
広報誌やマニュアル、利用説明会、講演会等を通じて、新技術の普及に努める。

### 1.3.8 地域情報化支援

1. 地域情報化の技術支援を行い、地域の健全な発展に寄与する。  
情報化社会への産・官・学の一体的取り組みを図る佐賀県高度情報化推進協議会が設置され各種施策が実施されている。県内唯一の総合大学である佐賀大学として学術面からの支援を行い、講演会、講習会、推進方策策定などに協力する。
2. 初等中等教育への技術協力を行う。  
佐賀大学教官が、小中学校に計算機を持ち込み、インターネット体験をさせる試みなどを行っている。今後初等中等教育への計算機とネットワークの導入の拡大に伴い起こる多くの問題に対して技術支援する。



## 第2章 学術情報処理センターにおける教育活動

### 2.1 センター教員の教育活動

平成 12 年度の講義担当状況			
職・氏名	講義名	開講時期	開講対象
教授・只木進一	情報のしくみ	後期	全学教育センター主題科目
	プログラミング概論Ⅰ	前期	理工学部知能情報システム学科 2 年
	プログラミング概論Ⅱ	後期	理工学部知能情報システム学科 2 年
	計算の理論Ⅰ	前期	理工学部知能情報システム学科 3 年
	知識科学特論	前期	工学系研究科情報科学専攻博士前期課程
卒業研究	通年	理工学部知能情報システム学科	
研究指導	通年	工学系研究科情報科学専攻博士前期課程	
助教授・福井市男			
助手・江藤博文	情報数理学(補助)	前期	理工学部数理科学科 4 年



## 第3章 学術情報処理センターにおける研究活動

### 3.1 研究活動の概要

#### システム管理技術

大学における情報教育システム、研究支援システム及びネットワークシステムは、多様で多数の利用者が様々な目的で利用するシステムであり、業務用システムなど目的の定まったシステムとは管理手法が大きく異なる。また、大学ではこうしたシステムを管理するセンター部門の人員は著しく小人数である。そこで、小人数で多様で多数の利用者を擁するシステムを運用するために、管理項目の整理、システム管理者や事務職員更にシステム運用を支える非常勤スタッフへの仕事の配分、業務の自動化などを実践を通じて研究する。

#### ネットワーク運用技術

電子メールなどのネットワーク上のサービスを多様な利用者が容易に利用できるような仕組みの開発、ネットワーク利用の際のセキュリティ確保や認証技術、WEBを利用した情報共有などの要素技術の開発及び利用調査を行う。

#### 電子図書館及び学術情報システム

図書館目録情報など大学の含む研究・教育関係の情報をオンラインデータベース化し、WEB等を介して容易に検索が可能な環境を構築するとともに、各情報相互の連携をはかり、学術情報の総合的環境を構築する。

#### 交通流のシミュレーション及びオンライン交通流解析システム構築

追従模型やセルオートマトン模型など交通流の数値模型に対して、解析的手法及びシミュレーションを通じて、交通流の性質、特に渋滞相への転移を解明する。また、シミュレーション結果と実測データを比較するために、交通流の実測データをオンラインで行うシステムの開発を行う。

## 地球観測データの検索システム

地球観測データはインターネット上に数多く存在しているが、専門的な知識を持った利用者を対象としている。そこで専門的な知識の無い一般の利用者が地球観測データの検索が可能なシステムの開発を行った。また検索の高速化のためのネットワーク経路制御手法の開発を行った。

## 3.2 研究業績一覧

平成12年の学術情報処理センター教員の研究業績一覧

### 3.2.1 著書

- 只木進一、「脳科学大辞典」、甘利俊一、外山敬介編集(朝倉書店, 2000)、「数値シミュレーションの基本」を分担。
- 江藤博文、「計算機リテラシー [改定版]」、佐賀大学全学教育センター情報処理部会編集(ムイスリ出版, 2000)、「Javaの使い方」を分担。

### 3.2.2 学術論文

- E.Hanada, Y.Watanabe, Y.Nose, *Electromagnetic interference with electronic medical equipment induced by automatic conveyance systems*, *Journal of medical Systems* Vol. **24**, No. 1 (2000) pp. 11 - 20.
- E.Hanada, T.Takano, Y.Antoku, K.Matsumura, Y.Kenjo, Y.Watanabe, Y.Nose, *Advantages of low output mobile communication systems in hospitals*, *Journal of Medical Systems* Vol. **24**, No. 2 (2000) pp. 53 - 59.
- E.Hanada, Y.Watanabe, Y.Nose, *A screening gate to prevent entry of mobile telephone handsets in the speaking/stand-by mode into prohibited and restricted areas*, *IEEE Trans. on Information Technology in BioMedicine* (Accepted).
- S. Tadaki, M. Kikuchi, Y. Sugiyama and S. Yukawa, *Noise Induced Congestion in Coupled Map Optimal Velocity Model of Traffic Flow* in Y. Suzuki et al. *Soft Computing in Industrial Applications* (Springer, London, 2000).
- S. Tadaki, M. Kikuchi, Y. Sugiyama and S. Yukawa, *Congestion in Multi-lane Roads with Coupled Map Traffic Flow Model* in Y. Hiwatari, Y. Oyanagi, Y. Okabe and H. Takayama *Proceedings of The 5th International Conference on Computational Physics (Progress of Theoretical Physics Supplement No.138)* (2000).
- M. Kikuchi, Y. Sugiyama, S. Tadaki and S. Yukawa, *Asymmetric Optimal Velocity Model for Traffic Flow* in Y. Hiwatari, Y. Oyanagi, Y. Okabe and H. Takayama *Proceedings*

*of The 5th International Conference on Computational Physics (Progress of Theoretical Physics Supplement No.138 (2000)).*

- M. Kikuchi, Y. Sugiyama, S. Tadaki and S. Yukawa, *Congestion in Multi-lane Coupled Map Traffic Flow Model* in M. Tokuyama and H. E. Stanley *Statistical Physics* (AIP, 2000).
- K. Watanabe, A. Takeda and S. Tadaki, *A Universal E-mail Environment - WebMailer: Web Based E-mail Client Software Supporting IMAP4 Protocol* in *Proc. International ICSC Symposium on Interactive and Collaborative Computing (ICC'2000)* (2000).
- 渡辺健次、竹田暁彦、只木進一、「IMAP4 に対応した Web ベース電子メールクライアント WebMailer の開発」, 学術情報処理研究 No.4 (2000) 35.
- 江藤博文、山本高広、新井康平、「空間特徴による画像検索のためのインデクシング」, 日本写真測量学会誌 Vol39, No.3 (2000) 14-20.

### 3.2.3 資料・解説・論説・研究報告等

- 渡辺健次、只木進一、江藤博文、渡辺義明、「利用者認証と利用記録機能を実現するゲートウェイシステム Opengate の開発」, 信学技報 IN-99-95, TM99-61, OFS99-48 (2000-01).
- 只木進一、菊池誠、杉山雄規、湯川論「交通流の科学」日本物理学会誌 Vol. 55, No. 3 (2000) pp. 166 - 171.
- 只木進一、「UNIX ネットワークセキュリティー入門」, 佐賀大学情報処理センター広報 No. 9 (2000) pp. 23 - 28.
- 渡辺健次、竹田暁彦、只木進一、「情報処理教育における統一した電子メール利用環境の実現」, 信学技報 ET99-96 (2000-3).
- 安田伸一、木村伸子、福井市男、只木進一、「オンライン・シラバス」, 学術情報処理研究 No.4 (2000) 105.
- 江藤博文、渡辺健次、只木進一、渡辺義明、「センターの利用者管理を支援する Web ベース統合環境」, 学術情報処理研究 No.4 (2000) 111.

### 3.3 共同研究・研究費受け入れ状況

#### 3.3.1 共同研究

研究テーマ	共同研究相手先
結合写像型交通流モデル	三重短期大学、大阪大学、東京大学
交通流実測データの解析	龍谷大学、三重短期大学、大阪大学、東京大学
交通流の数理モデルに基づくシミュレータ開発とデータベース構築	三重短期大学、Gerhard-Mercator-Universität Duisburg (ドイツ)
二車線高速道路-シミュレーションと実測データ解析	龍谷大学
交通流の数理的研究とシミュレータの開発、交通流データベースの構築及び、環境負荷を軽減する交通管制の適正化の研究	名古屋大学、三重短期大学、愛知大学、中日本自動車短期大学、大阪大学、龍谷大学、東京大学、高エネルギー加速器研究機構

#### 3.3.2 研究費受け入れ状況

平成12年度(11月まで)の学外からの研究費受け入れ状況をまとめる。

費目	件数
科学研究費補助金	1件
奨学寄付金	2件

## 第4章 学術情報処理センターの教員組織

### 4.1 教員配置状況

職名	氏名	専門分野等
センター長・教授(併)	渡辺義明	システム管理技術、医療情報システム、神経回路網
教授	只木進一	システム管理技術、学術情報システム、情報科学、統計力学
助教授	福井市男	情報処理教育、素粒子・原子核理論
助教授		2001年4月着任予定
助手	江藤博文	システム管理技術、衛星画像処理

### 4.2 採用・昇任の手順・基準

#### 4.2.1 教員人事の基準

学術情報処理センター(以下センター)は、通常の学部運営とは様々な点で異なっており、その点に考慮した人事方針を取っている。

まず、センターは大学の全構成員と係わる学内共同利用の施設であり、教員はそのために必要な多くの業務を維持・発展させる任務がある。センターに関連する情報技術は進歩が極めて早いため、常に新規の研究開発調査を必要とする。さらに教員組織が小さく人事を停滞させないためには外部との人事交流が不可欠である。

従って、教員の選考に当たっては、業務を担う意欲を持つか否かを判断するとともに、並行して研究業績を上げることができる人材であるかを判断する。また、業績としては、論文以外にもシステム管理等の実績も評価する。ただし、人事交流の可能性が考慮できるよう、関連学部との間に基準の極端な格差は避ける。

#### 4.2.2 教員人事の手順

教員の採用及び昇任の人事手順は以下の通りである。センター運営委員会(以下運営委員会)が学部教授会相当であるとの基本的立場で人事を扱う。

1. 人事の必要があるとセンター長が判断したときには、運営委員会に人事小委員会の設置を提案する。

2. 人事小委員会において人事方針を議論し、具体的な候補の選出を行う。この際には上記の基準に照らして判断を行う。
3. 運営委員会では説明を受け質疑を行い、問題が無ければ次回の運営委員会でセンター規程に則り投票を行う。

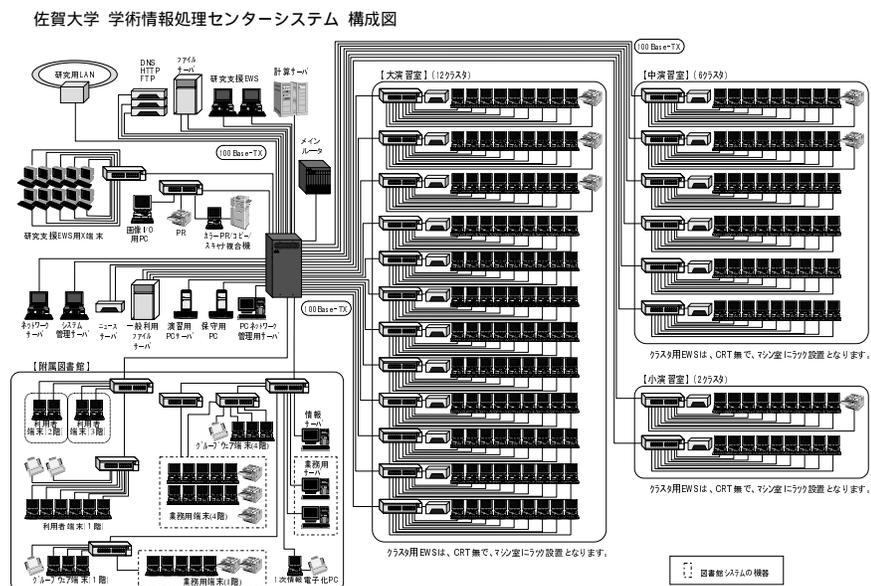
## 第5章 学術情報処理センターのシステム

### 5.1 学術情報システムの構成

学術情報処理センターのシステム構成を図 5.1 に示す。システムは、大きく、三つに分かれている。第一は、教育用システムであり、9 台のパーソナルコンピュータと 1 台のワークステーションからなるクラスタ 20 から構成され、三つの演習室に分けて配置されている。第二は、一般・研究用システムであり、一般利用用ワークステーション及び演算サーバ及び端末群から構成され、教職員の利用に供されている。第三は、ネットワークシステムである。

これらのシステムは、相互に 100Base-TX で接続されるとともに、光ケーブルを通じた Fast Ether Net を介して、全学から利用されている。更に、6Mbps の専用回線で九州大学を介して SINET に接続している。

図 5.1: 学術情報処理センターのシステム構成



## 5.2 学術情報処理センター演習室

## 5.2.1 講義一覧及びその受講者数

情報基礎科目						
授業科目名	平成 10 年度		平成 11 年度		平成 12 年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
情報基礎概論 (C4)(不定期)			8		69	
情報基礎演習 I(C1)	55		45		60	
情報基礎演習 I(C2)	44		42		48	
情報基礎演習 I(C3)	71		70		75	
情報基礎演習 I(C4)		72		65		75
情報基礎演習 I(C5)						
情報基礎演習 II(C)		25		71		45
情報基礎演習 II(C)		47		67		58
情報基礎演習 II(C)(集中)					40	
情報基礎演習 I(E)a	52		53		54	
情報基礎演習 I(E)b	52		51		51	
情報基礎演習 I(E)c	52		52		51	
情報基礎演習 I(E)d	47		50		52	
情報基礎演習 I(E)e	52		50		52	
情報基礎演習 I(E)f	52		47		51	
情報基礎演習 I(E)g	50			25		16
情報基礎概論 (T5,T6 クラス A)	81		61		53	
情報基礎概論 (T5,T6 クラス B)	58		56		59	
情報基礎概論 (T7,T8)a			59		53	
情報基礎概論 (T7,T8)b			60		52	
情報基礎演習 I(S1)	50		33		35	
情報基礎演習 I(T1,T2 物質)	41		39		46	
情報基礎演習 I(T1,T2 機能)	64		61		69	
情報基礎演習 I(T3,T4)		112		102		101
情報基礎演習 I(T5,T6 クラス A)	41		59		48	
情報基礎演習 I(T5,T6 クラス B)	60		56		52	
情報基礎演習 I(T7,T8)		130		98		108
情報基礎演習 II(S1)		50		37		35
情報基礎演習 II(T1,T2 物質)		41		39		46
情報基礎演習 II(T1,T2 機能)		54		62		64
情報基礎演習 II(T3,T4)	108		123		128	
情報基礎演習 II(T5,T6 クラス A)		42		50		51
情報基礎演習 II(T5,T6 クラス B)		60		50		59
情報基礎演習 II(T7,T8)				103		90
情報基礎演習 I(A1)	70		68		74	
情報基礎演習 I(A2)	92		84		93	
合計	1192	633	1227	769	1365	748

専門科目 (文化教育学部)						
授業科目名	平成 10 年度		平成 11 年度		平成 12 年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
プログラミング演習 I(社文)	3					
コンピュータ概論 (数学)	22					
コンピュータ I(数学)	17		20		26	
コンピュータ II(数学)		15		20		14
プログラミング演習 (社文)		9		6		3
情報処理演習 I(社文)	11					
情報処理演習 II(社文)		12				
電子計算機 II(社文)		16				
家庭情報処理演習 (家庭科)		29		23		37
情報科学演習 (社文)	11					
情報処理演習 I(数学)	10			26		22
数学教育特論 II(数学・院)	5	5			6	6
情報処理演習 II(数学)		8				3
電子計算機 I(数学)		4				
情報処理演習 I	21		38		31	
情報処理演習 Ib		32		13		23
情報処理演習 IIC			35		30	
環境情報処理論			22		26	
解析学 III					17	
情報処理演習 IIB		12		13		(不定期)10
電子計算機 II		9				
情報工学特論	6					
理科コンピュータ演習			19		12	
情報処理演習 III			29		20	
統計学 (不定期)		15				
総合セミナー (不定期)	4		10		2	
学習会 (不定期)	5		5	3		
電子計算機特論 (不定期)	4					
タイピング講習会 (不定期)					16	
卒論ゼミ (不定期)	5					
身の回りの数学 (不定期)				18		23
合計	103	187	140	160	155	162

専門科目 (経済学部)						
授業科目名	平成 10 年度		平成 11 年度		平成 12 年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
プログラミング-a	50					
プログラミング-b	50					
情報基礎	4				7	
演習 I			29	29		
演習 IV					29	30
ゼミ (不定期)		12				
環境法演習 (不定期)				10		
フレッシュマンセミナー (不定期)					22	
合計	4	112	29	39	58	30

専門科目 (理工学部)						
授業科目名	平成 10 年度		平成 11 年度		平成 12 年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
電子計算機 (数学)	24					
プログラム論 (電子)		60		55		68
電子計算機 (数学)		40				
プログラミング (数学)				41		38
プログラム演習 (電子)		60		60		68
計算機物理 B(物理)	33		68			29
計算機物理 A(物理)		47		39	41	
数理文章作成 I(数学)	38		52		33	
数理文章作成 II(数学)		38		45		34
シミュレーション数理学 (数理)					39	
専門周辺科目			30			
情報数理学					5	
FORTRAN 演習 (電子)(不定期)	18		12			
ネットワーク社会と技術 (全学対象)(不定期)		74		92		101
建設構造学特別講義 (都市工学)(不定期)		61				
都市工学ゼミ (不定期)	23		12			
構造力学特論 (不定期)			41			
情報学実験 II (不定期)					35	
情報学実験 II (不定期)					32	
物理卒論生指導 (不定期)					2	
物理学実験 II(物理) (集中)			8			
ガイダンス (物理) (不定期)			7			
フレッシュマンセミナー (物理)(不定期)		32	41		45	
説明会 (機械)(不定期)	6					
フレッシュマンセミナー (機械)(不定期)			104		101	
コンピュータガイダンス (知能情報)(不定期)	67		90		66	
同上	15					
同上	38					
同上	5					
就職ガイダンス (土木、建設)(不定期)	103					
就職ガイダンス (都市工学)(不定期)		18				
電気電子工学実験 IV(不定期)						8
合計	370	430	465	332	399	346

専門科目 (農学部)						
授業科目名	平成 10 年度		平成 11 年度		平成 12 年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
畜産学実験実習 II(生物生産)	18				10	
経営管理情報演習 (生物生産)	12		10		12	
経営管理情報演習 (生物生産)	12					
情報処理学 I(生物生産)		85		73		74
畜産学演習 I(生物生産)		10		10	11	11
畜産学演習 II(生物生産)			10			
測量学 II(生物生産)		32		33		28
生産生物学実験 (生物生産)a(不定期)		53		50		48
生産生物学実験 (生物生産)b(不定期)		53		50		48
生物学実験 (不定期)	29					
合計	47	257	10	226	21	221

専門科目 (留学生センター)						
授業科目名	平成 10 年度		平成 11 年度		平成 12 年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
日本語 II(不定期)						3
合計						3

## 5.2. 学術情報処理センター演習室

## 5.2.2 演習室時間割

平成 12 年度 情報処理演習室時間割 [前期](H12.3.28)

		月	火	水	木	金
8:40	1 校時	大 後藤:情報基礎概論 (T5&T6 クラス A )1 年 中 瀧川:解析学 III(文教)3 年 小	大 中 小	大 福井:情報基礎演習 I(S1)1 年 中 小	大 宮良:フレッシュマンセ ミナー (理・機械) 中 宮良:フレッシュマンセ ミナー (理・機械) 小	大 中 大隅:情報処理演習 III(文教) 小
10:20	2 校時	大 林田:情報基礎演習 I(T1&T2 機能)1 年 中 塚本:計算機物理 A(理・ 物理)3 年 小	大 中 安田:情報基礎(経)大学 院 小	大 古川:情報基礎概論 (T5&T6 クラス B)1 年 中 山下(寿):演習 IV(経)4 年 小	大 原:情報基礎演習 I(T5&T6 クラス B)1 年 中 滝澤:情報基礎演習 I(T1&T2 物質)1 年 小林:畜産学演習 II(農・ 生) 小	大 津田:情報基礎演習 I(E)1 年 中 常盤:情報基礎演習 I(E)1 年 小 帯屋:構造力学特論 II(理・都市工学)大学 院 1
12:40	3 校時	大 後藤:情報基礎演習 I(T5&T6 クラス A)1 年 中 大隅/三原:情報処理演習 II C 小	大 中 パソコンの保守作業 (13:00~16:00) 小	大 中 江藤:情報数理学(理・ 数)4 年 小	大 大元:情報基礎演習 I(C1&C2)1 年 中 森田:情報基礎演習 I(C1&C2)1 年 小	大 安田:情報基礎演習 I(E)1 年 中 (山中):情報基礎演習 I(E)1 年 小
14:20	4 校時	大 大串/古賀:情報基礎概論 (T7&T8)1 年 中 小倉:シミュレーション 数理学(理・数理)3 年 小	大 中 パソコンの保守作業 (13:00~16:00) 小	大 佐藤:情報基礎演習 II(T3&T4)2 年 中 瀧川:コンピュータ I(文 教・数学)2 年 小 佐藤:情報基礎演習 II(T3&T4)2 年 小	大 中 日比野:数理文章作成 I(理・数)2 年 40 名 小 瀧川:数学教育特論 II(育)院 1 年	大 藤木:情報基礎演習 I(A1)1 年 中 (山中):情報基礎演習 I(E)1 年 小
16:00	5 校時	大 瀧川:情報基礎演習 I(C3)1 年 中 小	大 中 小	大 紫/帯屋:情報基礎概論 (T7&T8)1 年 中 瀧川/大隅 環境情報処理 論(文教)2 年 小	大 中 石原:理科コンピュータ 演習(文教)1 年 小 瀧川:総合セミナー (育)4 年 4 月 3 回	大 林(敬):情報基礎演習 I(A2)1 年 中 (山中):情報基礎演習 I(E)1 年 小

平成12年度 情報処理演習室時間割 [後期](H12.10.3)

		月		火		水		木		金	
8:40	1校時	大 角縁:情報基礎演習 I(C4)1年 中 小	大 掛下/寺本:ネットワーク社会技術(全学部全学年) 中 小	大 福井:情報基礎演習 II(S1)1年 中 小 小林:畜産学演習 I(農・生)3年	大 中 小	大 高棕:情報基礎演習 II(T1&T2 物質)1年 中 小倉:数理文章作成 II(理・数)2年 小	大 内田/稲葉:情報処理学 I(農・生)1年 中 川崎:家庭情報処理演習 (育・家)3年 小				
10:20	2校時	大 吉塚:情報基礎演習 II(T1&T2 機能)1年 中 塚本:計算機物理 B(理・物理)3年 小	大 中 小	大 堂園:情報基礎演習 II(T5&T6 クラス B)1年 中 取出:測量学 II(農・生)3年 小	大 瀧川:情報処理演習 I(文教)1年 中 石原:情報処理演習 I(文教)1年 小	大 古川:プログラム論(理・電子)2年 中 小 瀧川:プログラミング演習 II(育・社文)2年	大 津田:情報基礎演習 I(E) 中 小				
12:40	3校時	大 後藤:情報基礎演習 II(T5&T6 クラス A)1年 中 下村:生産生物学実験(農・生)2年 10/16,23,30 小	大 パソコンの保守作業(13:00~16:00) 中 小	大 宮良:情報基礎演習 I(T3&T4)1年 中 小 下村:経営管理情報演習(農・生)3年	大 大串/古賀:情報基礎演習 I(T7&T8)1年 中 小 瀧川:数学教育学特論 II(育)院1年	大 山下(寿):演習 IV(経)4年 中 小					
14:20	4校時	大 石原:情報基礎演習 II(C)1年 中 下村:生産生物学実験(農・生)2年 3回 小 瀧川:身の回りの数学(文教)1年 2回	大 パソコンの保守作業(13:00~16:00) 中 小	大 吉川:プログラム演習(理・電子)2年 中 小	大 福井:プログラミング(理・数学)3年 中 小	大 大串/帯屋:情報基礎演習 II(T7&T8)3年 中 瀧川:情報処理演習 I(文教)1年 小					
16:00	5校時	大 石原:情報基礎演習 II(C)1年 中 瀧川:コンピュータ II(文教・数学)2年 小	大 中 小	大 吉川:プログラム演習(理・電子)2年 中 小	大 福井:プログラミング(理・数学)3年 中 小	大 大串/帯屋:情報基礎演習 II(T7&T8)3年 中 瀧川:情報処理演習 I(文教)1年 小					

## 5.3 電子図書館システムの構想

はじめに

学術情報処理センターへの改組に当たって、新たな業務である電子図書館機能の整備充実のためのシステムを、平成 13 年 3 月に導入する。その概要を以下にまとめる。

目的

学術情報流通における媒体の多様化、世界的規模のネットワーク化の急速な進展の中で、大学においては研究教育支援のための情報提供機能を強化した電子図書館が求められている。また同時に電子図書館は、学内で生成される学術情報を積極的に外部に提供するための機能も有していなければならない。本システムは、これらの機能を有し、かつ資料の物理的形態及び所在場所の如何にかかわらず、共通のユーザインターフェイスによる一元的な情報の提供を目指した統合型電子図書館システムを構築することを目的とする。

システムの全体構成

本システムは、紙媒体を主体として提供されてきた学術情報を電子化し広く提供するための「電子化情報提供システム」、学生および教職員が生成する様々な学術情報を統合して保持し提供するための「研究教育用情報統合システム」、及びそれらのネットワーク基盤となる「電子図書館基盤システム」から構成し、既存のセンターシステム及び図書館システムを補完する。

電子化情報提供システム

電子化情報提供システムは、データベースサーバシステム、電子化情報提供 WWW サーバシステム、コンテンツ作成システム、Z39.50 リレーシステム、検索端末などからなる。本システムには、OPAC データベース、雑誌論文データベース、学位論文データベース、貴重書データベース、学術情報メタデータベースを構築する。本システムは、これらのデータ作成、検索及び一次情報提供支援システムを含む。

研究教育用情報統合システム

研究教育用情報統合システムは、ファイルサーバ、研究教育情報統合 WWW サーバシステム、利用者 WWW サーバシステムなどからなる。本システムでは、学生及び教職員が、教育・研究のための情報を蓄積保持し、WWW を介して公開する環境を提供する。特に、講義のシラバス及び各教員の研究成果をデータベース化しオンライン公開することを支援するとともに、電子化情報提供システムと連動した検索機能を提供する。

### 電子図書館基盤システム

電子図書館基盤システムは、検索端末認証サーバ、ゲートウェイ装置、DHCPサーバ装置、スイッチングハブなどからなり、電子図書館システムのネットワーク化、セキュリティ保持などの機能を持つ。

## 第6章 学術情報処理センターにおける国際交流

### 6.1 海外からの訪問者

見学日	見学者	人数
平成 11 年		
8 月 2 日	コンケン大学 ( タイ王国 )	2
平成 12 年		
6 月 27 日	北京工業大学学長助理他	6
7 月 6 日	安東大学 ( 韓国 ) 学生	17
8 月 3 日	木浦大学校 ( 韓国 ) 学長他	3
9 月 28 日	安東大学 ( 韓国 ) 職員 ( 研修者受け入れ )	4
10 月 12 日	中国農業大学副学長他	4

### 6.2 学術情報処理センター教員の海外渡航及び国際会議参加

氏名	事項	場所・期間
只木進一	Interfaces Pulses and Waves in Nonlinear Dissipative Systems (RIMS Project 2000 <i>Reaction-diffusion systems: theory and applications</i> ) にて招待講演	京都, 2000/8/28-31
	Conference on Computational Physics 2000 にて二件発表	Goald Coast, Australia, 2000/12/3-8



## 第7章 学術情報処理センターと社会との連携

学術情報処理センター教員の学外活動 (2000 年度)		
氏名	事項	期間など
渡辺義明	佐賀県産業教育審議会委員	1997.7-
	九州地域研究ネットワーク協会理事	1997.4-
	佐賀県情報発信 SAGA 運営委員会委員	1998.6-1999.3
	佐賀県中核機能整備検討委員会委員	1998.6-1999.3
	財団法人久留米・鳥栖地域技術振興センター技術開発専門委員	1998.6-
	佐賀県高度情報化推進委員会ソフトウェアコンクール審査委員長	1998,1999,2000.9
	九州大学大型計算機センター情報ネットワーク協議会委員	1999.4-
	佐賀県個人情報保護制度懇話会委員	2000.9-2000.3
	コンピュータと生活, 佐賀県立生涯学習センター主催さがトレンドセミナー講師	2000.7
	只木進一	京都大学大型計算機センタープログラム相談員
江藤博文	KARRN(九州地域研究ネットワーク) 協会幹事	1993.9-
	佐賀県教育センターインターネットゼミ講師	1997.1
	佐賀県企画局情報システム課インターネット管理者技術講習会講師	1997.2
	国立療養所東佐賀病院附属看護学校非常勤講師 (情報科学 (3 年)、ワープロ、パソコン指導 (1 年) を担当)	1997.4-
	世界・炎の博覧会「WWW 等による佐賀大学等ホームページ検索および地球環境観測衛星データ検索」出展	1997.6-1997.10
	九州航空宇宙開発推進協議会「仮想・九州地球観測情報センター」運用	1999.1-
	佐賀県高度情報化推進協議会インターネット研究会主催パソコン・インターネット・IT 講習会講師	2000.11

氏名	事項	期間など
センター	佐賀県工業技術センターネットワーク接続及び技術支援	1993.1-2000.4
	佐賀県教育センターネットワーク接続及び技術支援	1994.8-1999.3
	佐賀医科大学ネットワーク接続及び技術支援	1995.4-1996.7
	100校プロジェクト武雄市立武雄北中学校ネットワーク接続及び技術支援	1995.5-1997.3
	佐賀県窯業技術センターネットワーク接続及び技術支援	1996.4-2000.4
	佐賀女子短期大学ネットワーク接続及び技術支援	1996.4-2000.4
	佐賀科学少年団主催パソコンによるアニメーション作成入門	2000.12

## 第8章 学術情報処理センターにおける自己点検・評価の体制

学術情報処理センターでは、運営委員会(委員会構成については第10.2節を参照)の下の運用委員会に自己点検評価のWGを設置し、自己点検評価を実施している。WGは毎年度後期に活動を開始し、資料を収集し報告書を作成する。報告書は運用委員会の審議を経て、運営委員会に提出される。更に、運営委員会の審議の後、学長に提出される。

自己点検評価によって明らかになった問題点、改善点及び将来計画などは、運用委員会によって対処方法等を検討し、必要ならば専門委員会等に検討が付託される。



## 第9章 学術情報処理センターにおける外部評価の体制

### 9.1 協議会・研究会参加状況

学術情報処理センターでは、センター長が、前身の情報処理センター時代から国立大学情報処理センター協議会に出席してきた。今年度から学術及び総合情報処理センター長会議に出席している。また、学術及び総合情報処理センター研究交流・連絡会議に、参加している。

情報処理センター等のシステム運用に関する研究会である、学術情報処理研究集会及び情報処理学会分散システム研究会への参加及び研究発表も行っている。

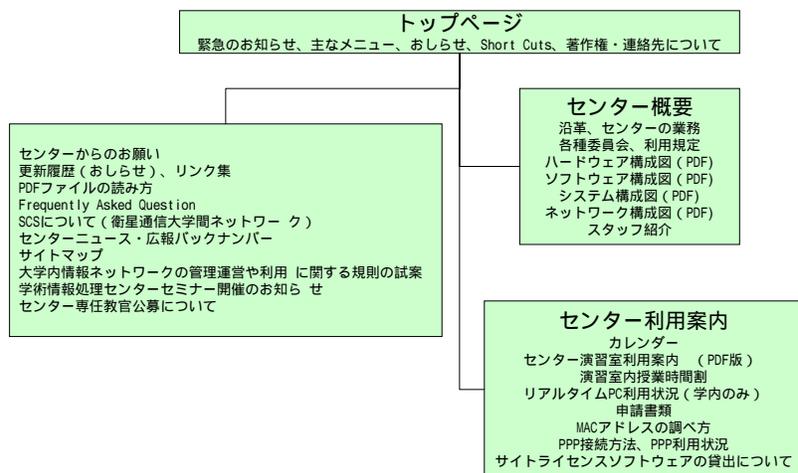
1999年及び2000年の協議会・研究会等参加状況		
氏名	協議会・研究会等名称	年月、場所
渡辺義明	第15回国立大学情報処理センター協議会総会	1999年6月、お茶の水大学
	第16回国立大学情報処理センター協議会総会	2000年6月、東京農工大学
	第12回学術及び総合情報処理センター研究交流・連絡会議	2000年10月、鹿児島大学
	第12回学術情報処理研究集会	2000年10月、鹿児島大学
	第15回学術及び総合情報処理センター長会議	2000年10月、徳島大学
只木進一	第12回学術情報処理研究集会	2000年10月、鹿児島大学
江藤博文	第15回国立大学情報処理センター協議会総会	1999年6月、お茶の水大学
	第11回学術情報処理研究集会	1999年10月、弘前大学
	コンピュータ犯罪に関する白浜シンポジウム	2000年5月、和歌山県
	第12回学術情報処理研究集会	2000年10月、鹿児島大学

### 9.2 ホームページからの情報公開と意見収集

佐賀大学学術情報処理センターの前身の情報処理センターでは、1994年からWWWサービスを実験的に開始し、センターサービスの広報などに利用してきた。学術情報処理センターへの改組後は、内容を一新し、センターの様々な活動の広報を行っている。更に、センター広報、センターニュースなど広報のオンライン化、各種申請書式のオンライン化等を順次進めている。

学術情報処理センター発足に当たって、システム利用、ネットワーク利用などの情報化関連の各種規定類の整備を行っているが、その原案をWWWから広報を行い、意見収集を行った。集計などの問題のため、その際の意見収集は電子メール及び文書によって行った。

図 9.1: 学術情報処理センターホームページの主な構成 (2000年10月現在)



また、日常的なセンターの活動への意見用フォームを WWW からダウンロード可能である。センターシステム利用に係わる質問回答集も公開している。

センターが行うシステムやサービスの整備、研究・教育活動などの WWW による広報については、検討中である。

## 第10章 学術情報処理センターの活動

### 10.1 センター活動の現状と計画

#### 10.1.1 センターの活動状況

1999年9月から2000年10月までの活動状況

H11. 9: 建物内のネットワークを10Mbpsから100Mbpsへ高速化する工事を行う。前年の工事と合わせ、ほぼ全学に渡る工事が完了した。

H11. 9: 農学部新棟の完成に伴い、ネットワークを拡大する。合わせて、利便性の向上のためDHCPサーバを設置する。

H11.10: センター利用に関する申し込み用紙及び要望提出用紙のPDFによるオンライン提供を開始する。

H11.11: 理工学部2号館(機能物質化学科棟)に、利便性の向上のためDHCPサーバを設置する。

H11.11~12: 2000年問題への対応作業を行う。なお、幸いにも2000年に起因する障害は発生しなかった。

H11.12: 2000年対策作業に合わせて、演習用システムのソフトウェアをバージョンアップする。

H11.12: 学術情報処理センター設置の具体化に合わせて設置準備委員会を設置する。

H12. 1: 特別講演会「インターネットにおけるセキュリティインシデントの実態と対策」(奈良先端大、山口英)を開催する。

H12. 1: 学術情報処理センター規程およびセンター利用規程を制定する。

H12. 1: 学術情報処理センター長を選考する。

H12. 1: 学内措置で運用しているセンター教官2名を継続して運用することに対して、学内の了解が得られる。

H12. 3: Web上でMailを操作できるソフトWebMailerの試験運用を開始する。これは知能情報システム学科で開発したものである。

H12. 3: 設置に伴うレンタル増に対する仕様策定委員会を設置する。導入システムとして電子図書館システムを計画する。

- H12. 3: 東京工業大学へ電子図書館システムの視察に行く。
- H12. 3: 電子図書館システムの仕様策定に必要な資料を招請するため、業者説明会を開催する。
- H12. 3: 情報処理センター広報第 9 号を発行する。
- H12. 4: 学術情報処理センターおよび運営委員会が設置される。
- H12. 4: 学術情報処理センター長が評議員に指名される。
- H12. 4: 技官と事務官の体制が強化される。
- H12. 4: 研究支援推進員 1 名を採用する。
- H12. 4: 専任教授および助教授の選考作業を開始する。
- H12. 4: キャンパス情報ネットワーク関連規則案の議論を開始する。これは管理規則、利用者の倫理規程、管理者の倫理規程、措置に関する内規などを含む。
- H12. 4: シラバスオンライン化の全学的検討を開始する。
- H12. 4: 学術情報処理センターと附属図書館（増築分）を合わせ現図書館横（佐賀大学の中心地）に新築する案を策定する。
- H12. 5: 上記合築案が佐賀大学施設委員会で正式に承認され、佐賀大学の概算要求事項となる。
- H12. 5: ネットワーク混雑に対応するため、九州大学との専用線を 1.5Mbps 高速デジタル回線から、6MbpsATM 専用回線へ高速化する。
- H12. 5: 佐賀大学同窓会館の完成に伴い、ネットワークを拡大する。
- H12. 5: コンピュータ犯罪の現状を知るため、「コンピュータ犯罪に関する白浜シンポジウム」に参加する。
- H12. 5: 情報処理センター広報をモデルケースとして、電子化と Web 公開に関する著作権許諾を試行する。
- H12. 5: 古文書「小城鍋島文庫」の電子化を検討するため、専門家を入れた作業グループを構成する。
- H12. 5: 電子図書館システム仕様書案の業者説明会を開催する。
- H12. 6: 学術情報処理センター設置記念学術講演会を開催する。
- H12. 6: 電子図書館システム入札説明会を開催する。
- H12. 6: 理工学部新棟（サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリおよび工学系研究科独立専攻生体機能システム制御工学専攻が入居）の完成に伴い、ネットワークを拡大する。合わせて、NAT と DHCP を導入することにより、セキュリティ強化と利便性向上を行う。

- H12. 6: 科学技術共同開発センターのネットワークに、NAT と DHCP を導入し、セキュリティ強化と利便性向上を行う。
- H12. 6: 郵政省推進の「ギガビットネットワーク」を佐賀大学から利用するため、「NetCom さが」と学術情報処理センターの間に 44Mbps の高速回線を設置する。
- H12. 6: 国立大学情報処理センター協議会（東京農工大学）に出席する。
- H12. 6: 公開端末や学生持参のノート PC に対応できるネットワーク利用認証システム Opengate の試験運用を開始する。これは、学術情報処理センターと知能情報システム学科の共同研究によるものである。
- H12. 7: 佐賀県立生涯学習センター主催「さがトレンドセミナー」にて、講演「コンピュータと生活」を行う。
- H12. 7: 事務局のネットワークに、DMZ を含むセキュリティ強化策を施す。
- H12. 8: 佐賀大学、大学説明会及びオープンキャンパスの参加する。
- H12. 8: 電子図書館システムの入札を受け、技術審査を行う。
- H12. 8: 郵政省と文部省が進めている「マルチメディア活用学校間連携推進事業」の中の「大学等との連携」の一環として、「NetCom さが」と佐賀大学とを高速回線で結ぶ。
- H12. 8: 九州地区国立学校等技術専門職員研修に参加する。
- H12. 9: 佐賀県個人情報保護制度懇話会に委員として参加する（会合 5 回）。
- H12. 9: 佐賀県高度情報化推進協議会第 6 回ソフトウェアコンクールの審査に委員として参加する。
- H12. 9: コンピュータウイルスの社会問題化に対応するためワクチンソフトの全学サイトライセンスを取得する。
- H12. 10: 第 12 回学術及び総合情報処理センター研究交流・連絡会議（鹿児島大学）に参加する。
- H12. 10: 第 4 回学術情報処理研究集会（鹿児島大学）において、2 件の発表を行う。
- H12. 10: レンタル更新を控え、次期センターシステムおよび次期図書館システムの検討を開始する。
- H13. 3: 電子図書館システムの運用を開始する。（予定）

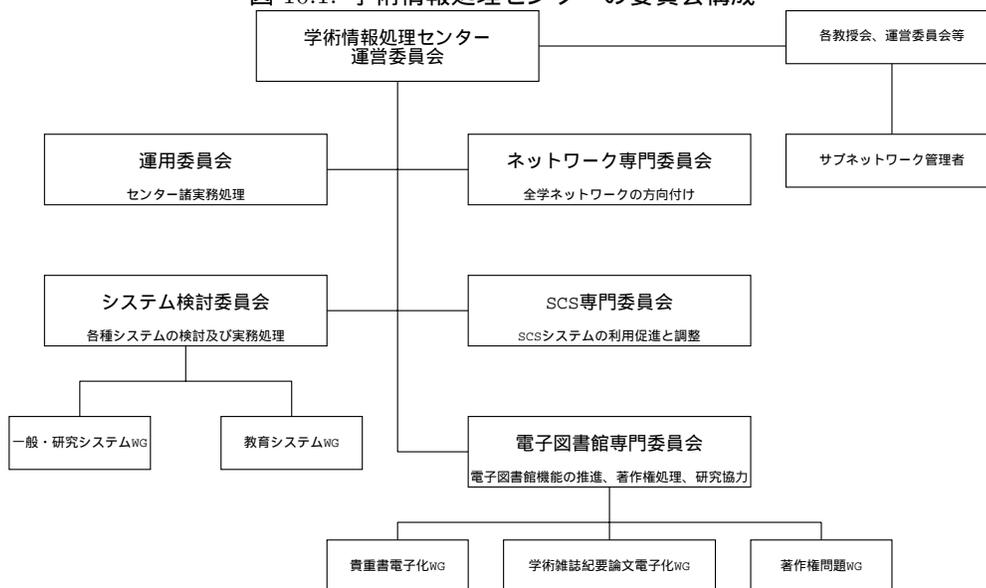
## 10.2 学術情報処理センターの委員会構成

学術情報処理センターの委員会の構成を図 10.1 に示す。運営委員会がセンター運営全般に係わる委員会であり、学術情報処理センター長、附属図書館長、全学教育センター長、各学部選出委員、及びセンター教員から構成されている。

日常的な運用及び諸実務処理は、運営委員会の下に常設されている運用委員会がおこなっている。運用委員会の活動状況は第 10.2.1 節にまとめる。その他、システム運用上の問題の処理、及び

システム更新に先駆けて、現状システムの問題点、次期システムへの方針などを検討するシステム検討委員会、電子図書館に係わる専門的事項を検討する電子図書館専門委員会、全学のネットワーク運用の問題を検討するネットワーク専門委員会、及び SCS の利用促進と利用調整を行う SCS 専門委員会が設置されている。

図 10.1: 学術情報処理センターの委員会構成



### 10.2.1 運用委員会の主な議題

運用委員会は、センターの日常的な運用に関する事項を審議・決定する委員会であり、毎月定例の会議を行っている。1999年10月(当時情報処理センター)から2000年10月までの主な議題を列挙する。

1999年10月22日

- センターニュース (No. 146)
- 「一般・研究用システム利用申込書」と「学内 LAN 接続申請書」の一部変更
- 「利用について(申込み案内と PDF 化した申請書等)」のセンターのホームページへの追加
- 広報の記事の変更
- 本学と九州大学間の通信回線の高速化検討
- ATM スイッチと FDDI ルータの 2000 年問題
- センター主催特別講演会

- DNS へのアタック報告
- 報告事項

1999 年 11 月 19 日

- 情報処理センター関係の 2000 年対応状況
- センター主催特別講演会講師の決定
- 佐賀大学学術情報処理センター設置準備委員会の設置
- 佐賀大学学術情報処理センターに伴うシステム更新
- オープンキャンパスへの対応
- 九大との回線の混雑の原因と対策
- 佐賀大学同窓会からドメイン名取得依頼
- 報告事項

1999 年 12 月 17 日

- 学術情報処理センターの準備状況
- 2000 年問題対策
- 予算執行状況
- 九大との回線の混雑の原因と対策
- センター主催特別講演会講師との交渉状況
- 報告事項

2000 年 1 月 21 日

- 学術情報処理センター準備状況
- センター予算の執行状況
- 広報原稿
- POP 及び PPP に関する利用者からの要望への回答
- 学術情報処理センター改組準備に伴う図書館から運用委員会へのオブサーバの参加
- 学術情報処理センター改組に伴うシステム更新検討 WG メンバー
- 電子図書館機能の構想
- 報告事項

2000 年 2 月 16 日

- 学術情報処理センター準備状況
- 新システムの検討状況

- センター予算の執行状況
- 報告事項

2000 年 3 月 17 日

- *Remote Sensing Data and Information Access Link* 実験にともなう回線
- センター予算の執行状況確認
- 事務系ネットワークをプライベートアドレスに移行する作業について
- 理工学部 8 号館ネットワークについて
- 同窓会会館のネットワークについて
- R&D センターのネットワークについて
- QCN の接続と Proxy サーバの運用開始と利用状況
- 報告事項

2000 年 4 月 21 日

- 運用委員長選出
- 「ギガビットネットワーク通信回線接続の為の高速回線設置について」の了承
- 「学内 LAN 接続申込書」の様式
- 「一般・研究用システム利用申込書」の様式
- センターニュース No.2
- 規定類の検討
- センター建物について
- センター技官の運用委員会への参加
- モバイル端末や一時端末の取扱検討開始
- 演習室での大量印刷への対応
- 報告事項

2000 年 5 月 19 日

- 「学内 LAN 接続申込書」及び「一般・研究用システム利用申込書」様式
- 1999 年度決算
- 専門委員会の設置
- 規定類の原案承認
- 電子図書館専門委員検討
- センター ID を持たない教員への対応
- センター内業務ネットワークのプライベートアドレスへの移行検討

- 著作権処理
- 今年度の広報編集方
- 報告事項

2000年6月16日

- 2000年度予算編成
- 専門委員会の設置
- センター広報原稿に係わる著作権許諾書の書式及び処理について
- 報告事項

2000年7月14日

- 2000年度予算に関する全学予算委員会及び運営委員会による承認
- 2000年度広報の内容
- 自己点検評価方針
- 「オープンキャンパス」への対応
- ワクチンソフトの全学ライセンス及び貸し出し体制
- 夏休み中の開館予定
- 平成12年度教育改善推進経費(学長裁量経費)への対応
- 報告事項

2000年9月8日

- 自己点検評価項目
- センター広報の目次案
- 特別講演会開催検討
- ネットワーク規則案の取り扱い
- 2002年春のシステム更新を附属図書館業務システムと一体で行う件
- Web運営方針の検討へ向けた準備
- 佐賀県主催の講習会への対応
- センター相談員の今後の雇用
- 報告事項

2000年10月13日

- 委員の交替と委員長選出
- 自己点検評価報告書作成開始

- システム更新に係わる演習室の確保
- 教育内容に関するアンケート
- ネットワーク規則案の取り扱い
- メールによるセンターニュース配送
- センターが取り組んでいる作業やプロジェクトの広報体制
- 報告事項

## 10.3 広報活動

### 10.3.1 広報誌発行

学術情報処理センターでは、情報処理センター時代の 1991 年度から毎年一度広報を発行している。1999 年度版の広報の内容は以下に示す。近年は、セキュリティーに関連した記事が多くなっている。また、本号は、情報処理センター発行の最終号であるため、情報処理センターの歩みと新しい学術情報処理センター発足に関する特集を組んでいる。なお、広報記事は本文を含めて

[http://www.cc.saga-u.ac.jp/backnumbers/public\\_info.htm](http://www.cc.saga-u.ac.jp/backnumbers/public_info.htm)

から公開されている。

佐賀大学情報処理センター広報第 9 号 (2000 年 3 月) 目次	
特集 1 情報処理センターの過去と未来	
最後の情報処理センター長として	渡辺義明
初代センター長の思い出	荒牧軍治
2 番、セカンド、新井	新井康平
佐賀大学電子計算機室	森田譲
情報処理センターは何をしてきた?	福井市男
情報処理センターの歴史	渡辺義明
学術情報処理センター紹介	渡辺義明
学術情報処理センターに期待する	荒牧軍治
特集 2 情報のセキュリティとリスク管理	
ネットワークセキュリティの現状	江藤博文
UNIX ネットワークセキュリティ入門	只木進一
Windows システムのセキュリティ入門	安田伸一
学外からセンターに届いたメールを安全に読む方法	渡辺健次
SSH を利用したファイル転送の利用について (Windows 版)	小野隆久
SSH を Mac で使うには	平良豊
知的財産の有効活用と尊重 (入門編) - 身近なリスク管理 -	寺本顕武
コンピュータウイルスの話	渡辺義明
外出先から電子メールを読む時の無駄を無くすには	渡辺健次
通信カードの MacAddress の調べ方	小野隆久

### 10.3.2 センターニュース

学術情報処理センターは、情報処理センター時代から、利用者への日常的な広報媒体として、A4一枚を原則とするセンターニュースを適宜発行してきた。1999年9月以降の目次を以下に示す。なお、センターニュースは

[http://www.cc.saga-u.ac.jp/backnumbers/center\\_news.htm](http://www.cc.saga-u.ac.jp/backnumbers/center_news.htm)

から PDF 形式で公開されている。

No.7(2000.10.16)

1. ワクチンソフト (Norton AntiVirus) の貸し出しについて
2. Microsoft Outlook のウイルス対策について
3. 新種ウイルス「MTX(マトリックス)」について

No.6(2000.7.24)

1. 8月の開館日及び利用時間等の日程について

No.5(2000.7.11)

1. 停電によるセンター・システム及び学内外ネットワークの運用停止について
2. 学内情報ネットワークの管理運営や利用に関する規則類の試案の公開について
3. WebMailer を利用してのアンケートについて

No.4(2000.6.5)

1. 学内情報ネットワークの管理運営や利用に関する規則類の試案の公開について
2. 申し込み用紙の様式変更について
3. WebMailer で読んだメールについて

No.3(2000.5.9)

1. LoveLetter と呼ばれるウイルスメールについて
2. 専用回線の高速化でのお詫びとお願いについて

No.2(2000.4.24)

1. 専用回線の高速化による学外ネットワークの停止について
2. 大学院生に進学した学生の新規登録の手続きについて
3. SCS の放送案内について 4. センターの臨時閉館について

No.1(2000.4.3)

1. 学術情報処理センター発足の挨拶
2. 「一般・研究用システム」の利用継続手続きについて
3. No.153(2000.3.21)
  - (a) 2月末で卒業する学生の利用期限等について
  - (b) 大学院等へ進学する学生の利用登録について
  - (c) Windows98/95 でホームページを見る時の注意について
4. No.152(2000.2.28)

5. 3月の開館等の日程について
6. 官公庁のホームページ改ざん事件の現状について

No.151(2000.2.7)

1. WebMailer の試験運用について
2. InternetExplorer のセキュリティホールについて

No.150(2000.1.5)

1. 新年のご挨拶
2. 西暦 2000 年問題の経過について
3. 大学入試センター試験による閉館について
4. PPP 接続時間の制限について
5. ニュースサーバの不具合について

No.149(1999.12.9)

1. センターの 2000 年問題の対応について
2. 年末年始の情報処理センターの開館（日・時間）等の日程について
3. 演習室の利用停止と教育用 EWS の利用制限について
4. 2000 年問題対応作業による定期保守時間の延長について
5. ユーザファイルのバックアップについて
6. 電子メールによる年賀状交換等の自粛について
7. 学外ネットワークの混雑状況について
8. 申請書等のホームページ掲載について

No.148(1999.11.11)

1. 2000 年問題対応作業による定期保守点検時間の変更（延長）について
2. 学外ネットワークの停止について
3. 2000 年問題（Y2K）に便乗したウィルスについて

No.147(1999.11.5)

1. 2000 年問題の対策について
2. 学外ネットワークの停止について

No.146(1999.10.26)

1. 定期保守点検時間の短縮について
2. 学外ネットワークの混雑状況について
3. センターへのご意見、ご要望等について
4. 学外ネットワークの停止について

No.145(1999.9.1)

1. 第二期の建物内 LAN の高速化工事について
2. 事務局棟及び保健管理センターのネットワークの停止について

## 10.4 他部局との連携

学術情報処理センターは、学内共同利用施設として、全学に情報基盤としての全学ネットワーク及び研究・教育用計算資源を提供するとともに、業務及び研究・教育における連携を図っている。以下の主な活動を示す。

- 学術情報処理センター設置の主な目的の一つとして、電子図書館機能の整備が挙げられている。電子図書館機能の整備は、附属図書館との連携の下に準備を行っている。整備中の電子図書館機能は、附属図書館所蔵目録と連携し、附属図書館所蔵の貴重書、学内開講講義のシラバス、教員の研究・教育活動に関する情報などを提供する予定である。また、これらの業務を円滑に遂行するために、附属図書館学術情報係長及び係員を学術情報処理センターへ併任としている。
- 大学における学術情報の電子化において、事務組織との連携も不可欠の要素である。そこで、総務部情報処理係と連携し、事務情報の電子化及びセキュリティー管理などの支援を行っている。また、これらの業務を円滑に行うために、総務部情報処理係員を学術情報処理センターへ併任としている。
- 学術情報の電子化に伴う様々な新しい技術を取り入れ、学術情報処理センターのサービスの質の向上を図るためには、学術情報システムに関する研究体制が不可欠である。学術情報処理センターでは、理工学部知能情報システム学科との協力の下で、システム管理技術や利用技術の研究開発を行っている。更に、関連する学部生及び大学院生の教育を行っている。
- 情報処理技術の基礎は、大学におけるリテラシー教育として重視されている。佐賀大学においても、全学共通の基礎科目として講義及び演習が低学年で行われ、学術情報処理センター演習室が利用されている。講義及び演習を主として担う全学教育センター情報処理部会との協力の下、学術情報処理センターでは情報処理教育内容の検討及び演習用システムの検討を行っている。また、演習用教科書作成、利用相談などを行っている。